06. CWTW-Proの電鍵を接続した送信練習機能

CWTW-Proでは、実際に電鍵キーを COMポート（RS-232C）に接続した送信打鍵練習ができる。電鍵を接続しない場合は、キーボードの [SHIFT] や [CTRL] キーで代用できる。

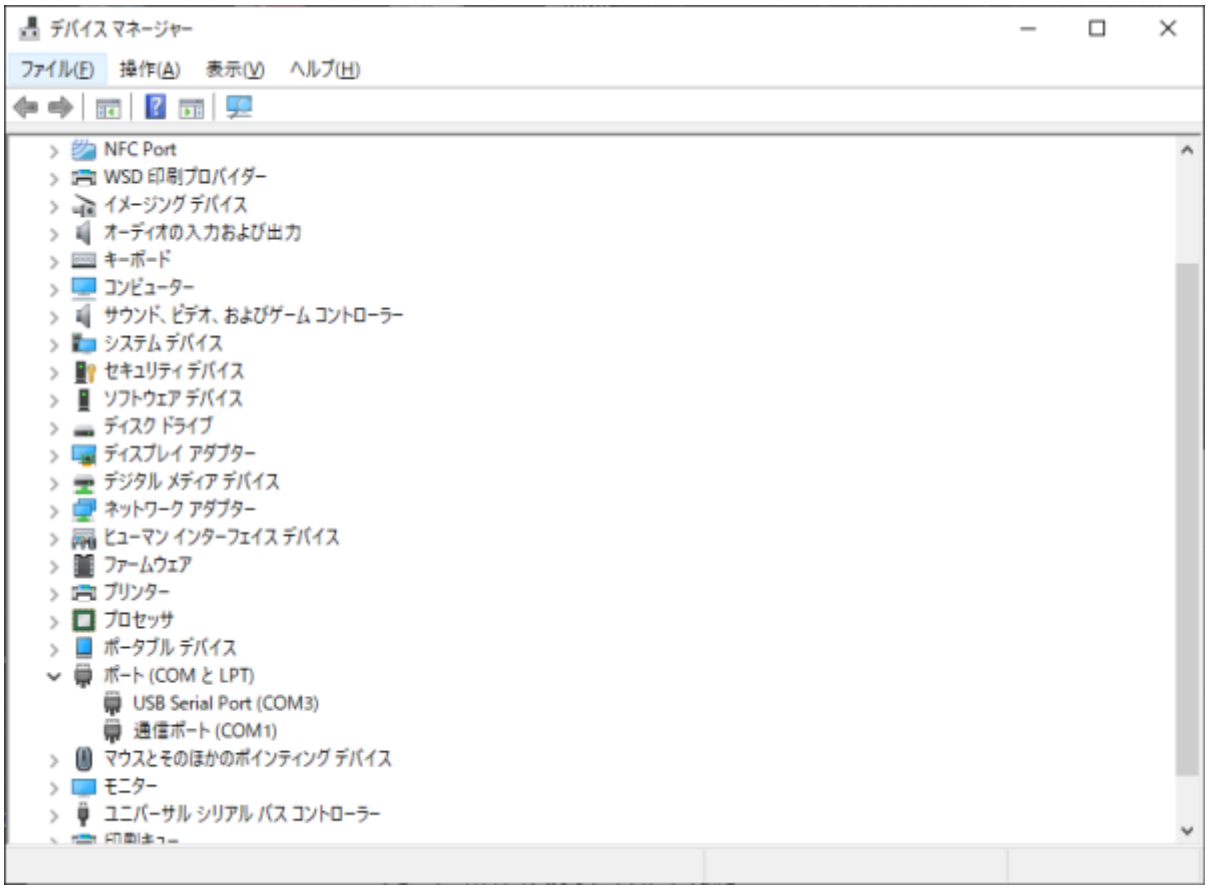
COMポートの準備

デスクトップパソコンなどでCOMポートが装備されていれば、そのコネクタを利用する。ノートパソコンなどではCOMポートが装備されていない場合が多いので、USB-シリアル変換ケーブルを利用する。

私が試したUSB-シリアル変換ケーブルは、iBUFFALOの「BSUSRC0610BS」を使った。下記記事でも紹介。

- Windows10、FTDIチップ搭載のUSBシリアル通信を使う

この変換ケーブルには、FTDI製チップが使われているらしく、広く使われているICなので、Windows10では標準で使える。
変換ケーブルをパソコンに接続して、COMポート番号を確認する。



COM3 に割り当てられた。

電鍵との接続ケーブルを作成

電鍵は、縦振キー／エレキーのどちらでも利用できる。
9ピンのD-SUBコネクタ(雌側)を入手し下記の配線をする。

縦振キー

4ピン(DTR)と6ピン(DSR)に電線をハンダ付けして、その２本の線に電鍵を接続する。

エレキー

4ピン(DTR)を共通端子に、6ピン(DSR)を短点端子に、8ピン(CTS)を長点端子に電線をハンダ付けして、その３本の線に電鍵を接続する。

エレキーを接続した例

【写真：工事中】

CWTW-Proで送信練習

CWTW-Proの環境設定で、前記で確認したCOMポート番号と、使用する電鍵の種類を設定しておく。
CWTW-Proを起動し、練習モードで [送信] を選んで [スタート] する。

【画面：工事中】

電鍵の打鍵パターンをCWTW-Proが自動認識して、画面に文字を表示する。打鍵した文字の確認練習ができる。

From:
https://yokoweb.net/dokuwiki/ - **新石器Wiki**

Permanent link:
https://yokoweb.net/dokuwiki/develop/cwtw-pro/cwtw-pro-send-mode?rev=1590986130

Last update: **2020/06/01 13:35**